

b 森林の多面的機能の持続的な発揮

1. 森林の多面的機能の発揮と樹木・特用林産物の活用のための研究開発
 - (2) 樹木や特用林産物の活用技術

課題名	近未来の社会構造や環境の変化を見据えた力強い食産業の構築		
研究項目	戦略研究	研究期間	令和2～6年度
担当者	利用部 微生物G 原田 陽（ほか5名）		
共同研究機関 (協力機関)	道総研産業技術環境研究本部（総括） 道総研農業研究本部，道総研水産研究本部 （(株)森産業東日本支社，(福)はるにれの里ふれあいきのこ村，下川町特用林産物栽培研究所，和弘食品（株））		
研究内容	道産食品の移輸出拡大に向けて，保存性を向上させた食品製造技術を開発するとともに，加工度を高めて道産の原料の特長を活かした付加価値の高い食品の製造技術を開発する。さらに人口減少などに伴う人手不足に対応した省力化・作業負荷を軽減する基盤技術を確立する。		

課題名	ヤナギ類樹木を活用したきのこ栽培技術の適用拡大		
研究項目	経常研究	研究期間	令和3～5年度
担当者	利用部 微生物G 原田 陽（ほか3名）		
共同研究機関 (協力機関)	北海道大学 （秋田県立大学，道総研林業試験場，道総研食品加工研究センター，（国研）寒地土木研究所，北海道開発局，北海道建設部）		
研究内容	ヤナギ類樹木のきのこ菌床への利用を促進するため，シイタケ以外のきのこ種に対するヤナギおが粉の培地材料としての利用可能性を明らかにする。また味覚センサーを用いた，きのこの客観的な食味データを収集し食味性を提示するための基礎資料とする。		

課題名	マツタケ菌根苗安定生産技術の開発		
研究項目	経常研究	研究期間	令和3～6年度
担当者	利用部 微生物G 宜寿次 盛生（ほか2名）		
共同研究機関 (協力機関)	道総研林業試験場 （北海道水産林務部，北海道大学，オホーツク西部森林室，足寄町，伊藤組）		
研究内容	北海道におけるマツタケ林地栽培技術開発を目指し，林分レベルでの植栽を可能にする菌根苗の新たな大量安定生産技術を開発する。併せて菌根苗の林地植栽に向け，マツタケ発生地環境情報を整理する。		

課題名	菌床栽培における植物性素材添加の影響評価		
研究項目	一般共同研究	研究期間	令和4年度
担当者	利用部 微生物G 原田 陽（ほか4名）		
共同研究機関	（株）アミノアップ		
研究内容	非公開		
研究結果	非公開		

試験研究成果の概要

課題名	道産芽かきシイタケを使用した調味料素材の開発		
研究項目	一般共同研究	研究期間	令和4年度
担当者	利用部 微生物G 東 智則（ほか2名）		
共同研究機関 （協力機関）	和弘食品株式会社，東京農業大学 （浜理PFST（株））		
研究内容	非公開		
研究結果	非公開		

課題名	きのこ等微生物由来成分の利用技術開発		
研究項目	一般共同研究	研究期間	令和4～5年度
担当者	利用部 微生物G 原田 陽（ほか4名）		
共同研究機関	北海道曹達（株），AGC（株）		
研究内容	非公開		

課題名	SDGsの達成に向けた森林活用を学ぶ教材の開発と実践		
研究項目	公募型研究	研究期間	令和3～4年度
担当者	技術部 製品開発グループ 北橋 善範		
共同研究機関 （協力機関）	道総研林業試験場，道総研ものづくり支援センター，旭川工業高等専門学校 （北海道教育大学，旭川農業高校，北海道地方ESD活動支援センター，北海道， 北海道森林管理局，日本木材青壮年団体連合会）		
研究内容	2030年のSDGs達成に向けた「持続可能な森林の活用」について，若者の森林知識に関する調査およびデータ蓄積を行うとともに，森林学習指導者が若年層（高校生・大学生）へ森林・林業・木材産業に関する知識を効率的に教えるための学習用教材を開発する。		
研究結果	持続可能な森林の活用とSDGsに関する新たな学習方法を提案すべく，若者の森林知識に関する調査および統計学的解析によりデータを集積し，それを基に「森林・林業・木材産業」と「SDGs」との関連や知識を効率的に教えるための学習用教材を開発した。		